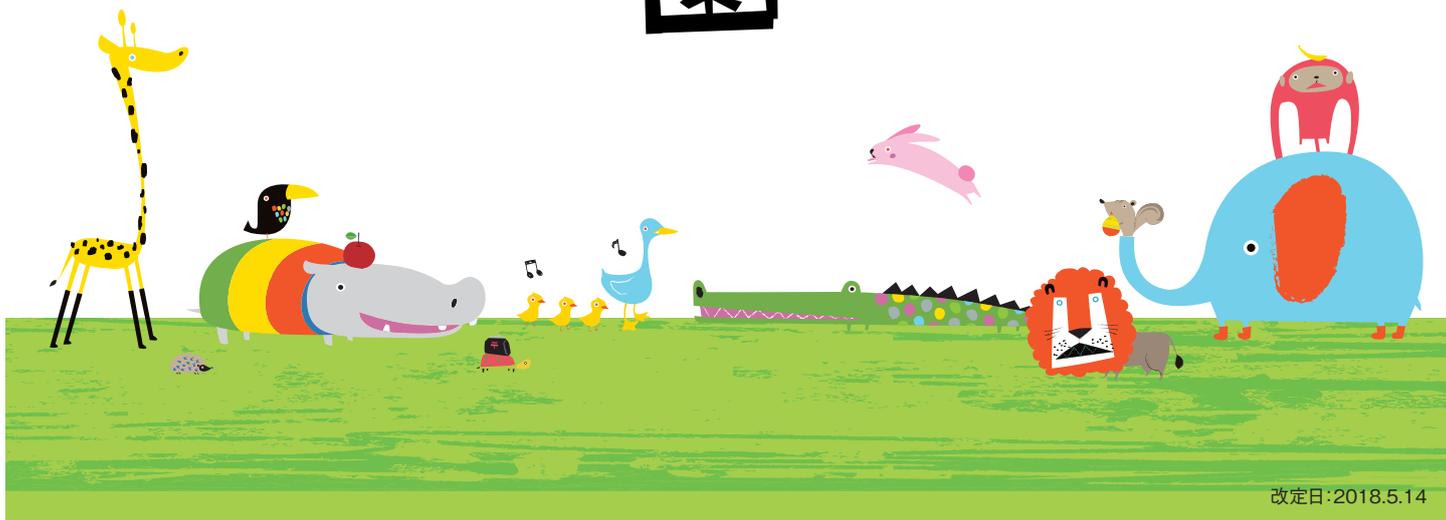




風と緑の認定保育園

わたしたちのかんがえかた



理想のこども園

保護者の方から「理事長先生の考える理想のこども園とは?」という質問を頂きました。

紙面の関係もありますので、少しだけ…。

私どものこども園は『子ども一人ひとりが主役のこども園』を掲げています。

このキャッチフレーズにすべてが表れているとも言えますが、

「子ども一人ひとりが輝ける園」を目指しています。

- 子ども一人ひとりが自分らしく生活できる園(保育教諭は子どもの個性や発達を理解し、教育・保育する)
- 子ども一人ひとりの無限の可能性を信じ伸長できる園
- 「心」や「内面(自主性・自立性・自律性・創造性・想像性・自尊心・優しさなど)」の育ちに重きを置いた乳幼児教育・保育を実践する園
- 世界に羽ばたく人生の基礎を築く園(生きる力や人間力を育てる)
- 自然を感じ、自然から学ぶことができる園

そのような事を考えて、子どもの自主的な活動(=遊び)を尊重しながら様々な取り組みをしていますが、乳幼児期には技術や知識の習得以上に「目には見えない内面を育てること」が重要だと考えています。

もちろん、知の基礎を築いていきますが、今できる、できないの評価ではなく、

意欲(興味や関心)を持つということ、大人になった時に花を咲かせられるようにと考えています。

生きる力という点では、「創造の森」を始め、植物などを育てることにより、

自然から学べるように配慮しています。

また、英語、リトミック、体操、造形などは専門の講師にお願いしています。(本物ということへのこだわり)

「風のように時には優しく、時には強く緑の木々のように、伸びやかにたくましく

愛と優しさを与えられる子どもたちを育てていきたい」

これは私がこの園を引き継いだ際に考えた言葉です。今後もお子さまへの教育メッセージをお伝えして参ります。

また、未来を担う子どもたちやこども園への思いが込められた園歌の作詞は、私が手掛けています。

こども園にご来園頂いた際には、未来の塔にある園歌(贈:卒園記念品)をぜひご覧になってください。

なお、絵本カフェにお越し頂きお声を掛けて頂ければ、子育ての悩みやご相談にお応えさせていただきます。

理事長 大塚雅一



●受け入れるということ

子どもの心を受け入れるということはどのようなことだと思いますか?それは、子どもが何かを要求した時に応えてあげることです。

例えば、「抱っこして…」「着替えさせて…」「絵本読んで…」と子どもにお願いされた時にしてあげることです。「自分でやろうね」ではなく、してあげること。

時には、自分でお着替えができるお子さんなのに「できない。やって…」と来ることもありますね。「もう、甘えて…」「自分でできるでしょう…」と言いたくなるのですが(笑)突き放すのではなく、やってあげてください。それが子どもの心を受け入れることです。

「甘やかし」ととられるかもしれませんが、乳幼児期には、その「甘やかしてあげる」ことが重要なのです。手をかけてあげることにより、「私は愛される存在」なんだということが実感でき、自分に自信を持てるようになります。そして「自分を愛すること」を知ります。逆に突き放されて育った子どもは、心が不安定になります。

困っても誰も助けてくれない → 私は愛されていない
→ 自分でなんとかしなきゃいけない → でもできない →
ダメな子

自ら(の存在)を否定するようになります。

よく「甘やかし=過保護」にしたら、子どもが自立できなくなるのでは?という声を耳にしますが、逆です。早く自立をさせようとするなら、乳幼児期には手をかけるべきです。何でもそうですが、土台が不安定なところに、立派なものは育たない(立たない)。

してあげる(甘やかし) → 私は愛されるべき存在 →
自尊心の芽生え → チャレンジしてみよう → 自立

また「過保護」と似た言葉に「過干渉」があります。これは似て異なるものですね。干渉はしてはいけません。子どもが自らしようとしているのに、いちいち口をはさむことはしてはいけません。

「過保護」と「過干渉」の違いは何か?それは「主体がどちらにあるか?」ということです。子ども主体なのが「過保護」、大人主体なのが「過干渉」。過干渉は大人の都合の良いように子どもを操ることであり、子どもの主体性を踏みにじってしまいます。それは言わば、自主性の芽を摘んでいることになります。

私は職員たちに「過保護OK、過干渉NO」と話しています。ご家庭でも同様です。十分に甘えさせてあげてください。

保護者の皆様へのお願いは…。「お子さんを甘えさせてあげること」です(笑)「今、忙しいから…」「後でね…」もできる限りなくして、子どもを最優先でお願いします。

パパが焼きもちを焼く…という声も聞こえてきそうですが、それは「ママが愛されている証拠」。どうぞ、子育てという限られた時間を楽しみながら、ご家族の思い出のページを増やしていきましょう!!

意味がわかりづらいでしょうか?もし、不明でしたら、お気軽にお話してください。子育てについて話をしましょう!!



●言葉かけ



子どもを「ひとりの人格ある存在」として試みるということは、私たちの基本の考え方です。そのため、行動はもちろん言葉かけひとつにも配慮もって行っています。子どもたちを認める言葉・誉める言葉・プラスになる言葉かけをするようにしています。どうしても注意をしなければならない困った行動をした場合は、それを別の行動に変える様な提案を言葉にし、行動全てや人格を否定するような言葉は使わない。「すてきね」「素晴らしいわ」「良かったね」「困ったね」「先生悲しいな」「間違っちゃったね」等。子どもの心はデリケートです。大人の不用意な発言により傷つくことがあります。十分に配慮をした言葉かけをするようにしています。

教えて理事長

●「ダメ」と言わない

「こども園では、先生たちが子どもたちに『ダメ』と言わないと聞いたのですが、何故ですか？」という質問を頂きました。

私が職員たちに話をしている（指導している）ことは「否定的な言葉は使わない」ということです。「ダメ」「やめて」「NO」という言葉ですね。基本的に肯定する言葉をかけるようにしています。

それは「子どもの存在を認めてあげる」ということに繋がります。「肯定される言葉を受けている子ども」＝「存在を認めてもらっている子ども」＝

「愛情をいっぱい受けている子ども」は、自らが「愛されるべき存在」であるということを実感できます。

そのように育てられた子どもは、壁にぶつかっても乗り越えて行ける生きる力が身に付きます。基本は「愛情」ですね。もちろん、問題ある行動を注意しないということではありません。子どもの年齢に応じて、子どもたちが自ら気が付くよ

うに、自らを省みるように、注意などの言葉かけはします。「人」としてのベースは、きちんと育てるように配慮しています。



●文字の習得

「ひらがなを覚えさせたいのですが、どうすればいいですか？」
「ワークブックはやらないのですか？」という質問を頂きました。

良くあるのが、文字を習得するためにワークブックを購入し、子どもが興味や関心を示さないのに、教え込むことです。しかし、これは逆効果です。私は自分の娘にも実践しましたが、「文字は教えない」ということです。

???と思われる保護者の方が多いと思いますが、簡単に言えば、そういうことです（笑） 禅問答になってしまいますので、少し詳しく書きます。

まずは、子どもが文字に興味や関心を持つようにすることが大切です。その為には、絵本を数多く読んであげること。乳幼児期からするとよいですね。

「今からでは、遅い?」と思われる保護者の方もいらっしゃるかもしれませんが、そんなことはありません。すぐに始めてください。テレビではなく、親の生の声の読み聞かせです。

子どもが「読んで…」と持って来たら、必ず、読んであげる。

同じ絵本を何度も読まされて「他の絵本持ってきてよ～」と思うこともあります（笑）、繰返し読むことがいいのです。（学校に行った時にわかります。新しい問題を多く解くよりも、同じ問題を繰返しやるほうが、子どもの成績は上がります。有名塾の先生もそう話しています）

睡眠の前などは特にいいですね。眠るか？眠らないか？夢うつつの時に聞く、親の愛

情あふれる声は、何物にも代えがたい音楽でもあります。

子どもがせがむだけ、3冊でも4冊でも読んであげてください。

初めは絵を見て、絵本の世界に入り込みますが（これが本当は重要です。創造力・想像力を大きく育てます）次第に文字に興味を持つようになります。親が教えようとしなくても必ず、興味を持つようになります。興味関心を持って、「ママ、これ何という字」と聞いてきた時に教えてあげればいいのです。決して焦ってはいけません。

子どもの発達にはバラバラです。4歳になったから読める、5歳になったから読めるという公式はありません。

同じクラスの子が読めるようになったから…と焦ることが最も禁物です。私の長女は早く、文字に興味を持ちましたが、次女はのんびりでした。姉妹でも、そうです。その子に合わせてあげることが重要です。逆に年長になってから興味を持った子どものほうが短期間で覚える傾向も見られます。

興味を持ってきたな～と思ってきたら、子どもの部屋や自宅のトイレに「あいうえお表」を貼るのもいいですね。

あとは、親が本を読む姿を見せることも重要です。

「親の言うことはしないが、親のすることは真似をする」…実感している保護者も多いのでは?!

私も実感しています。真似して欲しくない所ほど、真似をします（悲笑）

一番してはいけないことは、初めに書きましたように、教え込むこと。「文字嫌い」の子どもを育ててしまい、小学生、中学生になって勉強をしない子どもになってしまいます。

結局、教科書、参考書は文字でできていますね。その文字の習得でつまづいてしまうと、後々まで影響してしまいます。

乳幼児教育は、今、花を咲かせるのではなく、10年、20年、30年先に…大きな花を咲かせる土壌をつくる時期です。

焦らず、ゆっくりと育てていきたいものです。こども園での文字習得に関しても、年度ごとに見直しをしていきます。

本来の在り方は、上記のようなものです。当こども園の教育も本来の乳幼児教育の考え方を元に進めていきたいと考えています。ワークブックにつきましても、再度、見直しをしていきます。

